

伊藤 謙一 議員

国際化に向けて

問 8月に本市の小学生を対象にイングリッシュ・デイキャンプが開催される。また、小学校での英語必修化やラグビーW杯に向け、今後英語教育の充実化が予定されているが、英語教育の事業計画と本事業の位置づけは。

答 平成32年度、小学校5、6年生から英語の授業が始まることに伴い、本市では国際的な人材育成のため、各種事業を計画・推進していく。イングリッシュ・デイキャンプにおける外国人教師との交流を活用した意欲の向上、英語検定の受験料を一律1000円とするなど、積極的に子どもたちの教育を支援したい。さらに、本市でラグビーW杯が開催されることから、英語力を身につけた子どもたちが、袋井を訪れる英語圏の人々をおもてなしする英語ボランティアとして活躍することも目標の一つとして掲げていきたい。



ALTを交えた教員の英語指導力向上研修会

問 中学生を対象に、英語スピーチコンテストを行っている。この事業を今後どのように行うか。

答 毎年、中学生の各学校代表が、磐周地区の英語スピーチコンテストに参加している。本市の進める英語力向上事業により、英語スピーチコンテストに参加する生徒が増加し、その中から上位入賞者が輩出されることを期待している。

高木 清隆 議員

公共事業の施工時期

平準化の取り組みを

問 年度当初の施工量を確保しつつ、施工時期の平準化への効果が期待できる「ゼロ債務負担行為」導入の考えはあるか。

答 年度内の工事量の偏りを解消し、年間を通した継続的な工事の発注が行えるようゼロ債務負担行為の運用を行っていきたい。

筋力減弱症状の

軽減に向けた取り組みを

問 健康寿命延伸に向け、サルコペニア診断を活用すべきと考えるが。

答 高齢者が自らの筋肉量や筋力を確認し、転倒予防に向けた筋力づくりの意義を理解できるように、サルコペニア診断基準を活用していきたい。

中高生に対する

サポート事業の拡充を

問 家庭・学校・近隣地域以外の第4となる中高生「居場所」づくりが必要と考えるが。

答 学校や行政が用意したところから背を向けたがる中高生が集まれる環境・居場所づくりの必要性については、教育委員会においても十分理解していることから、勉強していく。



袋井市教育支援センター「ひまわり」の内部